

第1層協議体ダイジェスト版 「地域を強くするために今何が必要か」

第1層生活支援コーディネーターから

- ・各地域おたすけ隊定例会に参加。原宿地域おたすけ隊でサロン開催を検討中
- ・鶴ヶ島市、坂戸市、飯能市、日高市、鳩山町、毛呂山町、の4市2町で合同研修を検討中。その打合せに参加。

第2層生活支援コーディネーターから

- 宮崎生活支援コーディネーター（高麗包括）
- ・武蔵台の地域ケア会議に参加。武蔵台のオレンジ（認知症）カフェを地域の喫茶店で開催
- ・栗坪でサロンができないか検討中
- ・以前栗原の区長さんからサロンについての相談あり。
→民生委員さんより現在は老人会の活動（グランドゴルフ等）で十分との回答。

地域の方の声

「バス停にベンチをおいてほしい。」

「選挙の期日前投票に行くための市役所への交通手段が欲しい」

- 内野生活支援コーディネーター（高麗川包括）
- ・高麗川地区での認知症カフェは現在3か所あり（こま川団地・東急こまがわ・田波目）
→ニーズの把握も行っている。
- ・高齢者施設のフリースペースを使い、まずはくりくり体操を開催予定。
→近隣地区で参加者募集の回覧。

地域の方の声

「車の免許返納で、移動手段がなくなりサークルなどへ行けなくなった。」

- 伊藤生活支援コーディネーター（高萩包括）
- ・高萩団地の定期情報交換会を開催。
→地域の課題は移動が中心。市長への要望書を利用することを提案
- ・宮前の協議体が、発足から1年経過。法人の移動支援は定着。

地域の方の声

「人が住んでいない家屋や危険住宅、火事の後放置されたままの家があり、防災の観点からも課題。」

協議体メンバーからの情報提供

- 小泉さんから資料提供：読売新聞 令和元年8月28日
- ・免許返納した後の移動について支援している事例を紹介。デイサービスの送迎車で「相乗り」希望者を迎えに行ける最適な車両をAIが割り出し「寄り道」を指示。
- ・名古屋で、自動運転のゴルフカートを使った実証実験が行われた。
- 生活クラブから情報提供
- ・生活クラブでは、組合員が支えあう活動を行っている。市民の困りごと相談への対応力を鍛えるSOSゲーム（S：社会資源、O：おなやみ、S：相談）を活用している。

第1層協議体で目指していること ■社協事務局次長 小野寺

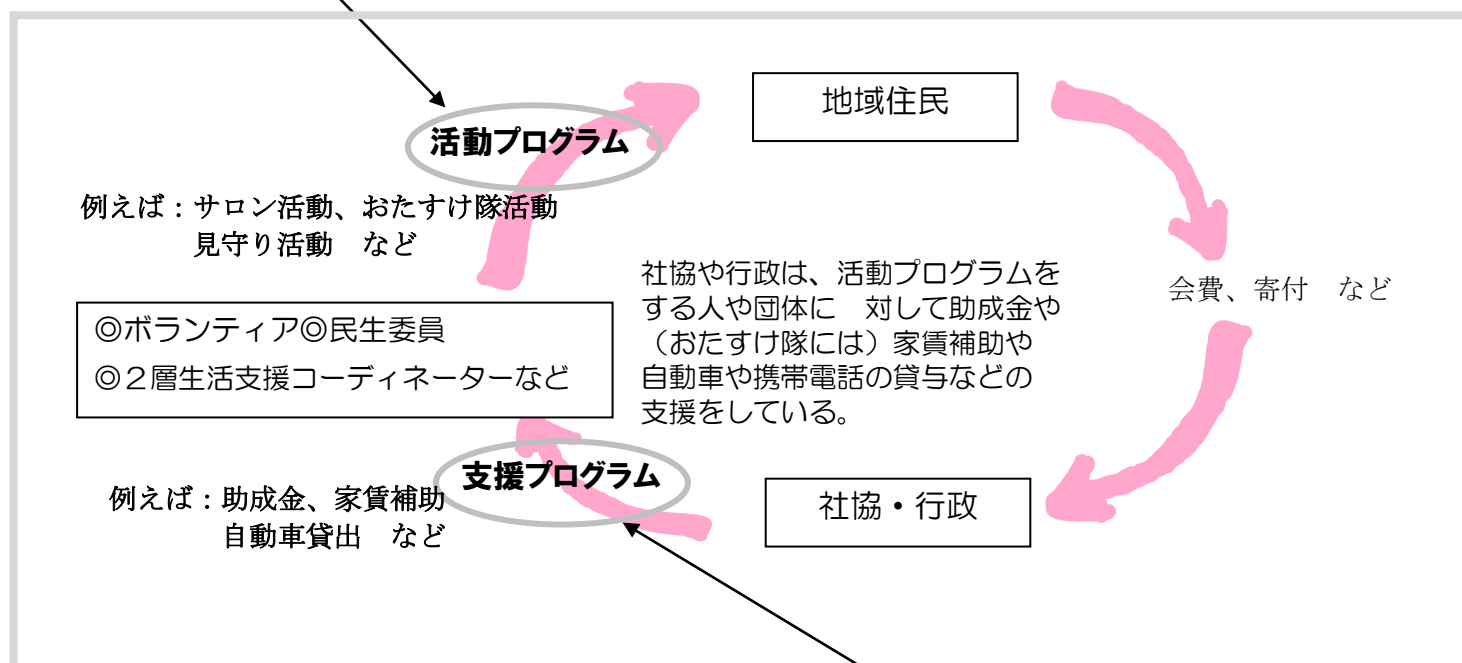
◆この協議体での話し合いについて

「問題のまとめた先が見えづらい!」「この協議体になぜ集まっている?」「この協議体で、何を目指していけばいいのか?」などの見通しをみなさんと共有したい。

◆みなさんの普段の活動は「活動プログラム」

みなさんは、地域の困っている人やそれぞれ地域の課題解決のために、足りない社会資源があり、今の団体を立ち上げたり、活動している。

その活動はここの「活動プログラム」の部分。



1層協議体のみなさんの役割は、どちらかというところ。 (支援プログラム)。

活動する上での課題に対し、多様な主体が関わり協議体で合意形成をして支援できる仕組みをつくっていくなど。第1層協議体は日高市の高齢者を支える活動をする最前線。

Q&A

質問：協議体のメンバーとしての任期はあるのか？

回答：今のところ任期ではなく、幅広く意見を出していただく場として重きを置いている。

質問：新しい仲間はいれられるのか？

回答：テーマによっては、その話題に詳しい人を呼ぶことはできる。

意見：市役所事業の無料タクシー券の利用状況や効果は？

回答：30年度5月時点の申請件数は、バスが312件、タクシーが1006件。

過年度の申請後の利用率は、約6割。